

《ハルピン便り》

アメリカ留学生と養母と

石 金楷

(1) 養母チームが訪日の予定

春節のあとに行われた2010年第1回例会で、残留孤児の養母・李叔蘭がまた日本へ旅行したいという希望をのべました。連絡会では、まだ未確定ですが、この養母の晩年の希望を叶えてあげるため、5月末もしくは6月初めに「養母訪日チーム」（自費）を編成して、日本へ訪問する予定です。メンバーは養父母、孤児、残留婦人の子供、連絡会の責任者という構成です。日程は1週間、東京で2日、千葉県で1日、友好交流を行いたい。その外、東京周辺の観光を考えています。再会の日を待っています。

(2) 王主任が山浦千草さんを接待

2月10日から11日まで、私は方正県に調査に来ている日本人女性・山浦千草さん（アメリカの大学院博士課程に留学中）を連れて方正県政府外事弁公室を訪ねた。王偉新主任と李宝元副主任の暖かい接待を受け、日本から肉親を訪ねてきている人とも交流を行った。中日友好園林を見学した時は、ちょうど降ったばかりの大雪の中で、友好園林全体が一面の銀世界、とても厳粛な気持ちにさせられた。写真を撮ったので送ります。3月2日、山浦千草さんが、丹東市から戻ってこられ、3月3日から2ヶ月間、方正県で調査研究をしたいということです。



銀世界の中の方正日本人公墓

(3) 吉岡稔先生と…

2月23日、ハルピン医科大学第2病院に入院中の干維漢先生を見舞いました。克山病（黒竜江省克山県の風土病）の権威（ハルピン医科大学の終身名誉校長）で、1991年から、日本の著名な糖尿病の専門家・吉岡稔先生（千葉県在住）とともに、連続10余年東北地区の検査や、残留孤児、養父母の健康診断を行ってこられました。88歳の干先生は5年前に脳出血で倒れられ、国内の著名な専門家らの治療を受けましたが、自分で体を動かすことも言葉を発することもできず、飲食も鼻から入れる、という状態です。53歳の長男が日本から帰国、昼は日本語を教え、夜は父親を介護するという毎日を過ごしていますが、養父母や日本の友人、吉岡稔先生、秋葉二郎さんに感謝を伝えてくれるよう頼まれました。

(奥村正雄訳)

(せき・きんかい：ハルピン養父母連絡会事務局長)